

◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：種まき鳥

26A-29

代表者：代表 平山 友子

URL :

1. 活動が必要とされた状況

私たちが活動する埼玉県寄居町は、すぐれた里山環境が残る地域です。農村から山林まで多様な環境を含む里山は、生態系の多様性、水源の涵養、土壌の水質保持、二酸化炭素固定、食料生産など実に多くの機能を果たしています。また、人が手を入れることで維持されてきた美しい風景は、この地で暮らす人の心の拠り所となっています。しかし、近年は、メガソーラーなどによる乱開発や不法投棄、耕作放棄、山林放置などによって里山環境は危機に瀕しています。一度失った環境を元に戻すにはたいへんな困難が伴います。まだ間に合ううちに、この環境の魅力に気付く人を増やしたいと考え、活動しています。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ・ 5月27日 参加人数 15人 古民家の前庭に大地の再生の手法で植栽
- ・ 7月17日 参加人数 9人 竹林を整備するため竹伐りワークショップ
- ・ 9月23日～10月1日 参加人数 100人以上 「第2回よりい里山文化祭」
- ・ 9月23日 参加人数 10人 古民家の前庭と道路との間の土留め、植栽などを大地の再生の手法で実施
- ・ 11月4日 参加人数 9人 加藤家前山で檜の人工林の間伐を行ない、樹皮を剥離
- ・ 11月12日 参加人数 5人 間伐樹皮を使った工作ワークショップ
- ・ 12月10日 参加人数 9人 加藤家前山の斜面の土留めを実施
- ・ 1月20日 参加人数 20人 土壌改良に使用する籾殻燻炭づくりワークショップ
- ・ 4月13日～全期間 参加人数各回1～5名 折に触れて環境整備の土壌改良材として使用する竹炭を焼いた。また、それに伴う竹切りも行なった。



3. 活動の成果

ワークショップ形式としたことで参加者は多くの学びを得たと思います。里山文化祭では、「近くに住んでいてもわからなかった里山環境の魅力に気付いた」という声が聴かれました。いずれの活動も、多様な人の目を里山環境に向けてもらう契機となりました。

4. 今後に残された課題

メンバー3人で運営をしていくのは負担が大きいです。スタッフとして活動してくれる仲間作りが課題となっています。